

大雪山の火山活動解説資料（平成 23 年 8 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図 1-①、図 5）

旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上 200m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。
2～3 日の現地調査では、旭岳地獄谷爆裂火口の複数の噴気孔からゴーというジェット音と共に白色の噴気が上がっている事を確認しました。各噴気孔の位置は前回（1995 年）と変わらず、新たな噴気孔も確認されませんでした。

・ 火口の熱の状況（図 2～4）

現地調査における噴気温度は、旭岳地獄谷爆裂火口の一部の噴気孔で 100℃以上の高温状態が継続し、前回（1995 年）の観測と大きく変化していないことを確認しました。

・ 地震及び微動の発生状況（図 1-②）

今期間発生した火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

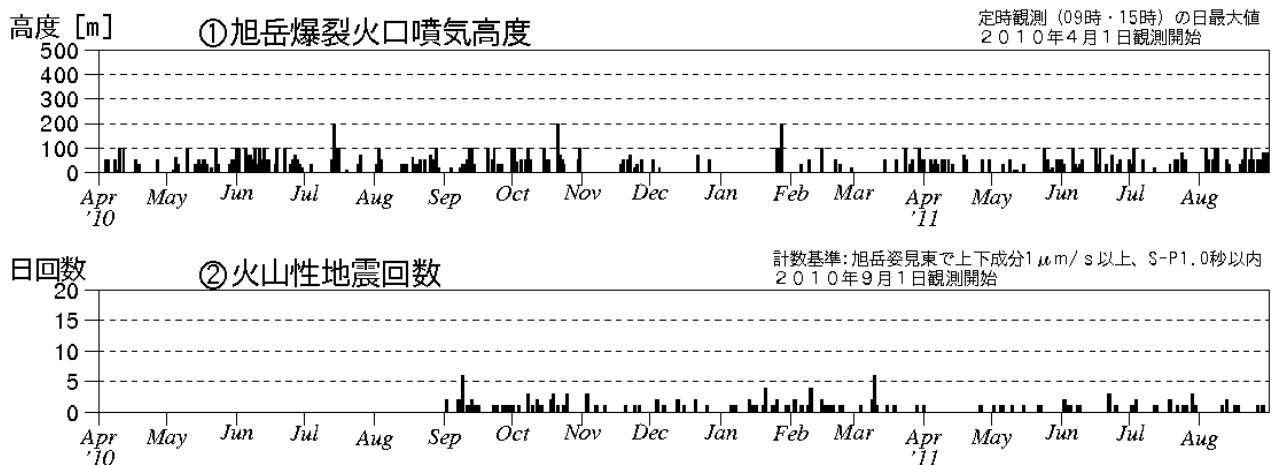


図 1 大雪山 火山活動経過図（2010 年 4 月～2011 年 8 月）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 9 月分）は平成 23 年 10 月 6 日に発表する予定です。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。

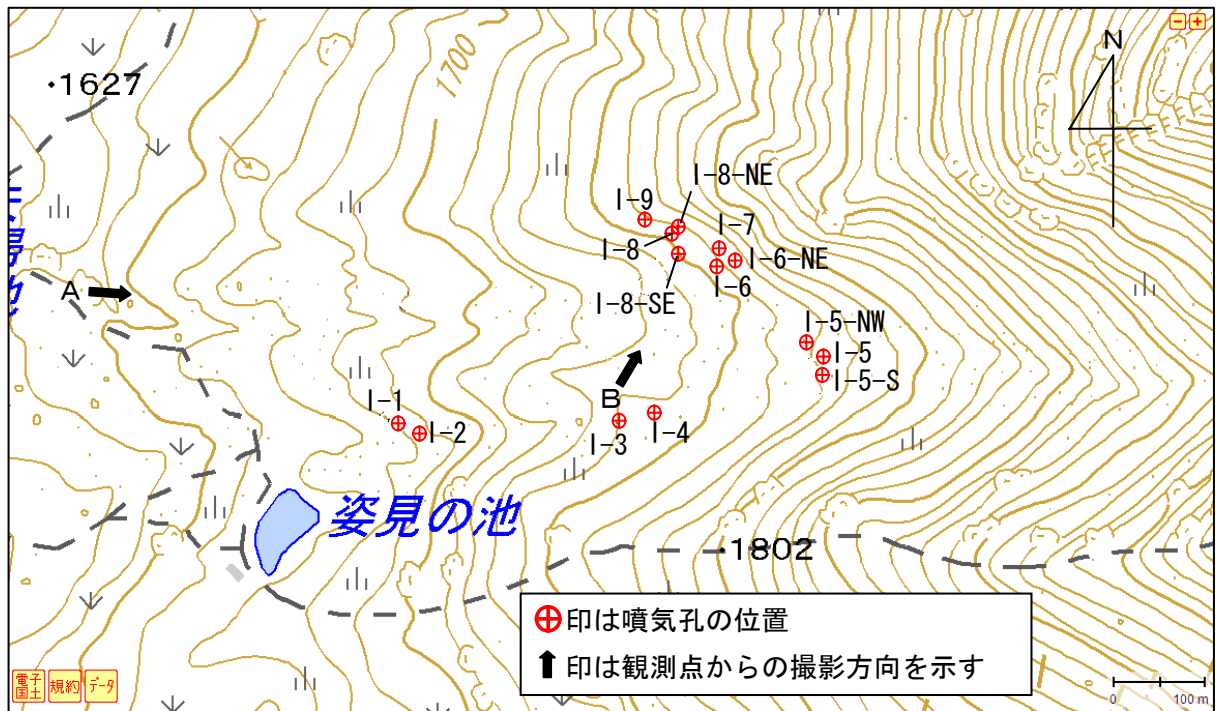


図2 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口 各噴気孔（I-1～6）、観測点（A～E）

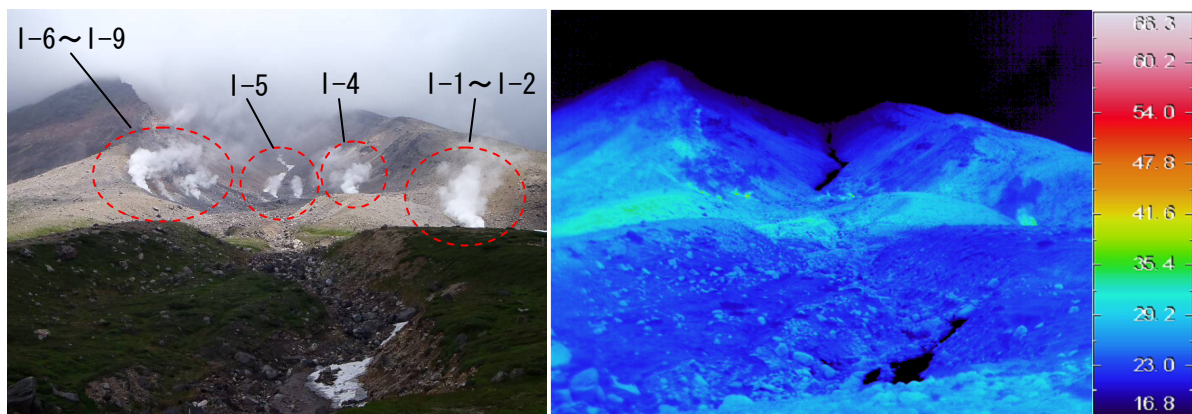


図3 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口 各噴気孔の位置（左）と地熱分布状況（右）
西側（図2中のA）から撮影

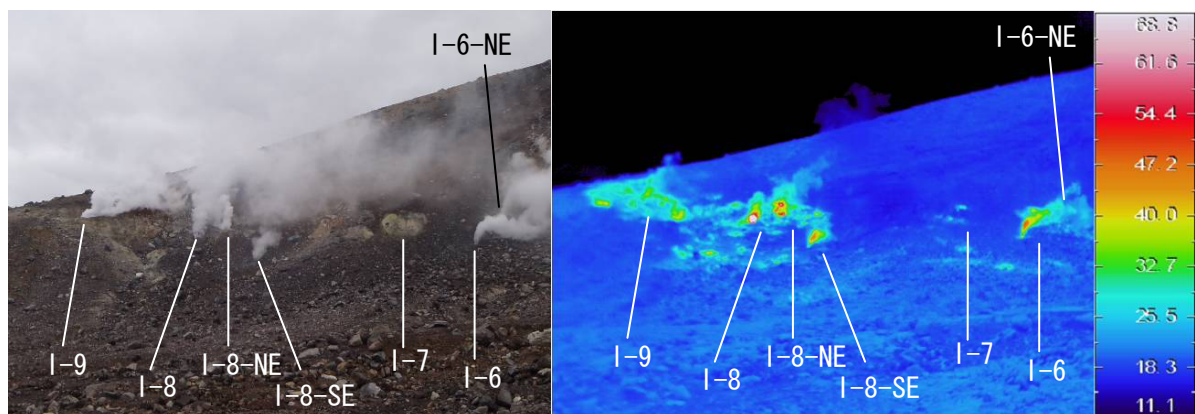


図4 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口 I-6～9噴気孔 南側（図2中のB）から撮影



図5 大雪山 旭岳西側斜面の状況（8月13日、忠別湖東遠望カメラによる）
白丸内は旭岳地獄谷爆裂火口の噴気

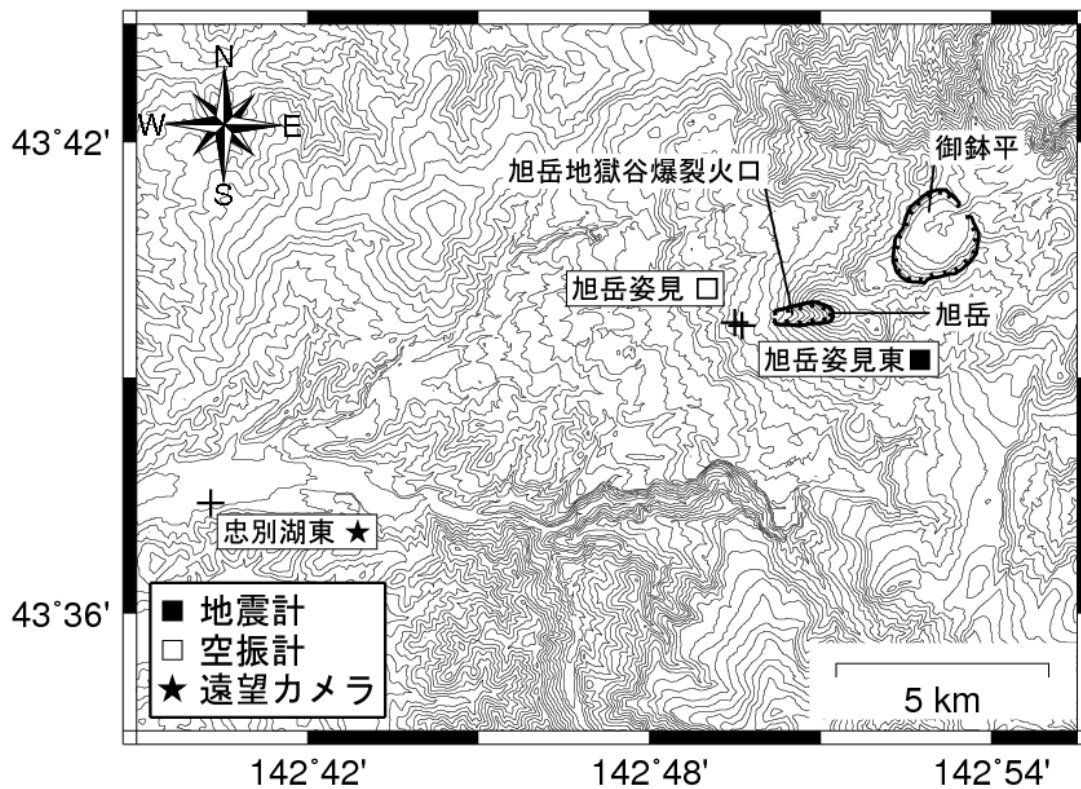


図6 大雪山 観測点配置図
+は観測点の位置を示す